



菜の葉一枚でも、粗末にせぬように

スーパーの店頭にならぶキャベツの値段、時期によって大きく変動することがありますね。

天候不順で不作になると、キャベツの値段はまたたく間に高騰し、人びとは大騒ぎします。逆に豊作になると値段が数分の一に安くなり、消費者は喜びます。けれどもその裏で農家は、供給過多による価格暴落で出荷しても利益が出なくなるため、せっかく育てたキャベツを破棄せざるを得なくなるのです。

捨てるなら無料で配つたら…という意見が出ます。しかし、無料で一個配れば、スーパーでは一個売れなくなるので、さらなる価格下落につながり、悪循環をまねくこととなります。

昔、天理時報に次のような意見広告がありました。水道の水を流しっぱなしで歯を磨いている写真にキャプション「水道代がもつたいたいのですか？ それとも、水がもつたいたいのですか？」

教祖は「菜の葉一枚でも、粗末にせぬように。」（逸話篇一二三に愛想「より」）とお教えくださいました。これは農産物をはじめとするあらゆる自然物は、親神様よりお与えいただいた恵みであり、陽気ぐらしするための素材だからでしょう。

「粗末にせぬように」からは、もつたいたない、無駄にしないという意味が読み取れますが、「生かす」「活用する」「工夫する」ということにもつながるのではないのでしょうか。

本島大教会布教部（位）



天理教本島大教会